

令和6年度 向栗崎小学校評価計画書

(自校の実態に応じた学校評価書)

①よくあてはまる
③あまりあてはまらない

②あてはまる
④まったくあてはまらない

重点 目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の 達成度判断基準	評価	①	○成果 ◆課題 ・改善策
学力の 向上	自ら考え、学び合う児童の育成	児童が課題を決めたり学び方を選んだりして、見通しをもって問題解決を行う姿が求められる。	子供主体の授業を目指し、「向栗崎小授業スタイル」に基づいた授業を実施している。〔努力目標〕	教職員アンケート 【設問5】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 100%	47.1%	○「向小授業スタイル」を、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という学びのプロセスにすることで、子供主体の授業づくりへの意識を高めることができた。 ○問題解決のための自己決定の場の工夫について学年会で話し合う場を設けたことで、手立てを講じたり、有効であったかを振り返ったりすることができた。 ○2学期の共通実践として、児童が学びや変容を自覚することができるよう、振り返る場を設定し、実践を積み重ねることができた。児童も授業を通してできることが増えたり、考えがより深まったという実感を得ている。 ◆記述式の活用問題では、題意を正しく読み取り、文章を引用して書く、資料を読み取り、根拠を基にして書くなど、要件を満たした記述ができていない。 ◆児童アンケートや保護者アンケートの結果、前期より家庭学習の定着に対する肯定的評価が下がっており、家庭学習の定着が不十分であると言える。 ・問題解決の見通しをもてるよう、問題に線を引きたり、キーワードに印を付けたりする指導を行い、自己評価や相互評価できるようにする。 ・家庭学習週間やメディアコントロール週間等の取組を通して、メディアに触れる時間を制限したり、家庭学習の時間を確保したりするなど、児童への意識付けを図るとともに家庭と連携していく。
			問題解決のための自己決定の場の工夫をしている。〔努力指標〕	教職員アンケート 【設問8】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 100%	47.1%	
			学びや変容を自覚するための工夫をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート 【設問9】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 94.1%	35.3%	
			授業を通して、できることが増えたり、考えがより深くなったりした。	児童生徒アンケート 【設問4】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 95.9%	62.1%	
	授業力の向上 (町)	課題に対し、粘り強く取り組もうとはしているが、問題解決の見通しをもち、根拠や理由を示すなど、より効果的な表現方法を工夫するまでには至っていない。	児童・生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業をしている。	教職員アンケート 【設問4】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 100%	17.6%	
			学校は、分かりやすい授業づくりや学力向上に努めている。	保護者アンケート 【設問2】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 97.7%	28.6%	
			授業は分かりやすい。	児童生徒アンケート 【設問5】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 94.0%	61.9%	
	家庭学習の定着 (町)	家庭での学習習慣が身に付いていない児童がいる。	家庭学習の習慣が身につくように指導している。	教職員アンケート 【設問1】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 100%	23.5%	
			我が子は、家庭学習の習慣が定着している。	保護者アンケート 【設問9】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 C 69.6%	16.3%	
			家庭学習の習慣が身についている。	児童生徒アンケート 【設問6】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 B 86.6%	50.6%	
	ICTの活用の推進 (町)	ICTを効果的に活用した授業が少ない。	1人1台端末を積極的・効果的に活用するよう工夫している。	教職員アンケート 【設問10】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 B 88.2%	35.3%	
			授業中に1人1台端末を進んで使っている。	児童生徒アンケート 【設問7】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 B 89.3%	51.9%	
豊かな心の 育成	自分も友達も大切にする学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート 【設問24】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導 A 100%	50.0%	○前期と比較して微減ではあるが、昨年度と比較すると割合は高く、自他の良さを伝え合う「いいところビンゴ」の取組による効果はある。 ◆2学期はフォームでのアンケートを計画していたが、都合で準備が間に合わず、結果的にタブレットを持ち帰ってのアンケートはできなかった。(従来どおりのアンケートは実施) 3学期はタブレットを持ち帰ってこころのアンケートを行う。 ・今後は、まず2月に「いいところビンゴ」だけでなく、委員会と連携して友達の良さを認め、感謝の気持ちを伝える取組を重点的に行き、児童の自己有用感を高められるようにしていく。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート 【設問11】	A：①+②が80％以上 B：①+②が65％以上 C：①+②が50％以上 D：①+②が50％未満	生徒指導 B 78.3%	14.8%	
			友達のよいところや頑張り进行認めている。〔成果指標〕	児童生徒アンケート 【設問8】	A：①+②が80％以上 B：①+②が65％以上 C：①+②が50％以上 D：①+②が50％未満	生徒指導 A 91.8%	59.1%	
			友達から認めてもらっている。〔成果指標〕	児童生徒アンケート 【設問9】	A：①+②が80％以上 B：①+②が65％以上 C：①+②が50％以上 D：①+②が50％未満	生徒指導 A 88.1%	50.0%	
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはまだできない児童も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力指標〕	教職員アンケート 【設問25】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導・ 特別活動 A 100%	55.6%	○年間を通して生活目標に挨拶を取り入れたことで、クラスや玄関などで相手より先に挨拶しようとする意識はついてきた。 ◆廊下での先挨拶については個人差が大きく、「元気に」挨拶することに関しては難しい児童も見られる。 ・委員会等児童からの意見も取り入れながら、よりよい挨拶習慣が身に付くような取組を行っていく。また、単年で終えるのではなく、来年度も継続して、挨拶を生徒指導の重点として取り組んでいく。
			子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている〔成果指標〕	保護者アンケート 【設問10】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導・ 特別活動 B 83.9%	20.6%	
			先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる〔成果指標〕	児童生徒アンケート 【設問10】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導・ 特別活動 A 93.7%	64.6%	
	児童が主体となる学級会の実施	学級活動において、学級生活の中から課題を見出し解決するための方法や内容をみんなで話し合ったり、協力して実践したりする経験が少ない。	学級会に進んで参加できている〔成果指標〕	児童生徒アンケート 【設問11】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	特別活動 B 89.6%	53.3%	○昨年度に比べるとアンケート結果はよくなっている。また、児童の学級会に対する意識も変わってきた。積極的に参加しようとする児童が増えた。 ◆教員も児童も個人差が見られる。学級会に関する取り組みは今年度からはじめてものなので、来年度以降も、さらに充実したものになるよう、取組を工夫したり実践したことを交流し合ったりしながら取り組んでいきたい。 ・児童が活発に話し合いに参加できる議題を共有し、年間計画の修正に生かす。
			学級会において児童の主体性をより伸ばす手立てを講じた。〔努力指標〕	教職員アンケート 【設問20】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	特別活動 A 92.3%	46.2%	

	道徳教育の推進 （町）	授業参観での授業公開 や学習履歴の揭示、お 便りの発行等を行って いる。	道徳の授業を中心に豊かな心や感性を育む よう指導している。	教職員アンケート 【設問6】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 92.9%	42.9%	○授業参観での道徳科授業公開や学期末の 学年だよりに道徳コーナーを掲載すること で指導してきたことが保護者にも伝わって いる。 ・来年度も授業参観での道徳授業公開や学 年だよりを用いた道徳の授業についてのお 便りを発行し、指導した内容を家庭に伝え たり話し合いで出てきた考えを共有できる ようにしていく。
生徒 指 導 の 充 実	教育相談体制の充実 （町）	いじめや不登校等の問 題に対して配慮が必要 な児童が数名おり、個 に応じた指導の必要性 が高まっている。	いじめや不登校等の問題に対して組織的に 取り組んでいる。（学校いじめ防止基本方針 に基づく取組の実施状況）	教職員アンケート 【設問13】	A：①+②が90％以上 B：①+②が90％以上 C：①+②が85％以上 D：①+②が85％未満	生徒指導 A 100%	55.6%	○問題行動等何かあった際は管理職や生徒 指導部に報告し、組織的に対応できている。 ◆保護者アンケートに関しては、前期と比 較してやや低下している。 ◆こころのアンケートだけでなく、普段の 様子、保護者の訴えからも、いじめ案件か どうかを十分に判断していくことが必要で あった。 ・問題行動等の様々な事案に対して、大小 関係なく迅速に対応していく。保護者への 連絡は積極的に行い、情報共有を図る。ま た、教職員間で情報共有するため、月初め の終礼で児童理解の場を設定するなど、い じめの未然防止に心がける。
			学校は、いじめや不登校等の問題の解決に 向けて積極的に取り組んでいる。	保護者アンケート 【設問7】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導 A 91.2%	23.4%	
			学校に行くのが楽しい。	児童生徒アンケート 【設問1】	A：①+②が95％以上 B：①+②が85％以上 C：①+②が75％以上 D：①+②が75％未満	生徒指導 B 91.0%	56.0%	
健康と安全・安心で健やかな教育の充実	「早寝・早起き・朝ご はん」の育成を通した 基本的生活習慣の確立	家庭への理解を図りな がら、早寝、早起きの 基本的生活習慣の定着 により、目標の時刻ま でに寝ることができ る児童を、より一層増 やしていく必要があ る。	児童が健康（生活プランニング）に気をつけて 生活するための指導をした。〔努力指標〕	教職員アンケート 【設問19】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	保健安全 A 100%	53.0%	○生活プランニング実施期間中は、子ども も保護者も意識して生活を見つめ直してい た。また、学校保健集会や睡眠講話など、 様々な取り組みを行うことができた。 ◆保護者と児童の意識の差が大きくなって きている。 ◆早寝することの意義などはわかっている けれどもなかなか就寝時刻の改善には至っ ていない。 ・自分の生活を改善しようと児童自身が意 欲的になるような取り組みを工夫していく 必要がある。
			子どもは学年の目標の時間に寝ている。〔成果 指標〕	保護者アンケート 【設問12】	A：①+②が95％以上 B：①+②が85％以上 C：①+②が75％以上 D：①+②が75％未満	保健安全 D 68.0%	23.3%	
			学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	児童アンケート 【設問13】	A：①+②が95％以上 B：①+②が85％以上 C：①+②が75％以上 D：①+②が75％未満	保健安全 C 75.6%	37.4%	
	安全指導の充実 （町）	けがによる保健室への 来室児童が増加してい る。	危機管理意識を高くもって、安全な学習環境 の整備や日常の安全指導を行っている。	教職員アンケート 【設問18】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	保健安全 A 100%	77.8%	○教師の危機管理意識は高まってきてい る。 ○保健室来室児童が減少傾向にある。けが 等の増加を見越した注意喚起などの効果が 表れているのではないかと。 ◆取り組んでいることが伝わっていない保 護者の割合が少しずつ増加している。 ・掲示やホームページを活用して、取り組 みを知らせていく。 ・危険個所や感染状況など、終礼等も活用 して情報共有していく。
			学校は、安全な学習環境の整備や不審者対 策などに危機意識をもった取組をしている。	保護者アンケート 【設問6】	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	保健安全 A 95.8%	36.0%	
	連携・協働の 地域と	地域人材の活用、地域 交流の活性化による教 育活動の充実と地域貢 献	地域人材を活用した授業を行った。〔成果指 標〕 ①：3回以上 ②：2回 ③：1回 ④：0回	教職員アンケート	A：①+②が80％以上 B：①+②が65％以上 C：①+②が50％以上 D：①+②が50％未満	教務 C 52.9%	17.6%	○アンケート項目の表記が「地域の保護者 や人材の活用」としていたため、到達率が 低くなっているが、実際は地域の人材を含 め、施設を大半の学年が3回以上活用して いる。 ・来年度は今年度の活用実態を踏まえて見 直しを持って活用していく。
開 か れ た 信 頼 さ れ る 学 校 づ く	学校情報の開示 （町）	開かれた教育課程の実 現のために、より一層 地域人材の活用・地域 交流を活発に行ってい くとともに、学校の取 組や児童の様子を積極 的に発信していく必要 がある。	各種便りや学校HP等で、学校や子どもたちの 様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えるよ う努めている。	教職員アンケート 【設問23】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	教頭 A 100%	29.4%	○昨年度より、各学年でHPを更新するよ うになり、学校行事だけでなく、学年独自 の行事や日々の学習活動も公開するようにな った。写真を中心にすることで、活動の 様子が伝わりやすいのと、更新に手間がか からないという点でよかった。 ◆学年だよりは児童への指導に必要である ことから、これまで紙媒体でのみ発行して いたが、PTAより、tetoru配信もしてほ しいという要望があった。 ・学年だより等についても、配信するよ うにしていく。
			学校は、各種便りや学校HP等で、学校や子 どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやす く伝えている。	保護者アンケート 【設問8】	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	教頭 A 95.9%	29.2%	
働 き 方 改 革	業務の適正化を図ると ともに、「ノー残業 デー」の具現化を図る	月によっては超過勤務 時間が80時間を越え る職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、6時を 目処に業務を終了した。〔成果指標〕 ①毎週 ②月2回程度 ③月1回程度 ④できなかった	勤務時間記録	A：①+②が80％以上 B：①+②が65％以上 C：①+②が50％以上 D：①+②が50％未満	教頭 B 75.0%	45.0%	○普段から6時には勤務を終えて帰宅する 職員が増えてきたため、ノー残業デーも比 較的多くの職員が業務を終了している。 年々、退庁時刻が早くなってきていること は、成果と言える。 ◆ノー残業デーの意識はあっても、実際には 次の日の授業の準備等もあり、なかなか 業務を終えられ職員もいる。特に、管理職 やベテラン層の職員は時間外勤務の時間 も多くなる傾向にある。 ・業務の効率化を図ったりや計画的に業務 を遂行することで、時間外勤務を軽減する ことは可能である。見直しを持って業務に あたることを心がけたい。
	町教職員働き方改革 方針の目標達成 （町）		時間外勤務は、1ヶ月45時間以下である。	勤務時間記録	A：①が80％以上 B：①が65％以上 C：①が50％以上 D：①が50％未満	教頭 B 75.0%	75.0%	
			時間外勤務は、最も多い月で上限80時間である。	勤務時間記録	A：①が80％以上 B：①が65％以上 C：①が50％以上 D：①が50％未満	教頭 A 100.0%	100.0%	
学校評議員による意見			・5限目の授業を参観したが、授業に集中している様子がうかがえた。落ち着いて授業を受けている様子がとてもよかった。自分の意見をノートに書く姿を見ても、たいへん鍛えられているなあと感じた。クロムブックをよく使っている。使い方に慣れているいろいろなことに活用できるのはよい。 ・道徳の授業を見た。子供たちの興味のもてる内容ですすめられているのがよかった。保護者もよく見ていた。 ・あいさつについては、する子としない子がいる。学校の中ではしているが、外ではできない子もいる。小さい声だががしているという子もいる。 ・地域の子供たちの顔がよく分からない。いろいろな事情があるが、地域としても子供たちの顔を覚えていくようにしていきたい。大人同士も分からなくなっている。地域の行事等で顔を合わせていけるようにしたい。 ・登校時の安全指導については、まだまだ危ないと感じることが多い。アカシア交差点は走ってくる子がまだいて気になる。ポケットに手を入れて歩いている様子も見かける。手袋をする方がよいと思うが、また、学校でも注意して欲しい。安全帽子のひもがちぎれている子もいる。 ・以前は向栗崎の公園でよく遊んでいる子がいたが、今は外で遊んでいる様子はほとんど見かけない。仮設住宅になったこともあるが、遊べないストレルを抱えている子はいないか。 ・公民館を子供たちの遊べる場所にしたいと思っている。 ・ホームページやtetoruのお知らせはいろいろ見ている。お知らせによって学校の様子が分かるのがよい。地域として、Tetoruで情報が入ってくるのも慣れてきた。 ・先生方の勤務について、少しずつ時間外が減ってきたのはよい。ベテラン層が早く帰れるように。健康に気を付けてがんばってください。					